

Title	「都市計画遺産」の概念構築と実態把握
Sub Title	Conceptual framework and actual condition of "planning heritage"
Author	中島, 直人(Nakajima, Naoto) 中野, 茂夫(Nakano, Shigeo) 初田, 香成(Hatsuda, Kosei) 西成, 典久(Nishinari, Norihisa) 佐野, 浩祥(Sano, Hiroyoshi) 津々見, 崇(Tsutsumi, Takashi)
Publisher	
Publication year	2014
Jtitle	科学研究費補助金研究成果報告書 (2013.)
JaLC DOI	
Abstract	<p>本研究では、1919年の都市計画法制定以降、現在までに都市計画法制度によって生み出されてきた都市空間のうち、保全・継承すべきものを「都市計画遺産」という新たな概念で整理し、全国各地での事例調査と東日本大震災被災地である三陸沿岸都市での調査に基づき、その実態を把握した。加えて、イギリス、アメリカ、オーストラリアの都市計画学会による「都市計画遺産」関連の取り組みの整理、アメリカ、中国の都市計画史研究者を招聘してのセミナーを通じて、「都市計画遺産」をめぐる議論の国際的状況を把握した。</p> <p>In this study, we established the new concept "planning heritages" for urban spaces which should be conserved and inherited as good achievements and future resources of Japanese. Intensive survey about "planning heritage" was carried on in some local cities including cities and towns in Sanriku region which were severely damaged by tsunami after the 3.11 East Japan Great Earthquake. In addition, current international discussions and projects about "planning heritages" became clear through our overseas researches in England, USA, Australia and our seminars with researchers from USA and China.</p>
Notes	研究種目：基盤研究(B) 研究期間：2011～2013 課題番号：23360270 研究分野：工学 科研費の分科・細目：建築学・都市計画・建築計画
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_23360270seika

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 9 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23360270

研究課題名(和文)「都市計画遺産」の概念構築と実態把握

研究課題名(英文) Conceptual framework and actual condition of "planning heritage"

研究代表者

中島 直人 (Nakajima, Naoto)

慶應義塾大学・環境情報学部・准教授

研究者番号：30345079

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,900,000円、(間接経費) 2,370,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、1919年の都市計画法制定以降、現在までに都市計画法制度によって生み出されてきた都市空間のうち、保全・継承すべきものを「都市計画遺産」という新たな概念で整理し、全国各地での事例調査と東日本大震災被災地である三陸沿岸都市での調査に基づき、その実態を把握した。加えて、イギリス、アメリカ、オーストラリアの都市計画学会による「都市計画遺産」関連の取り組みの整理、アメリカ、中国の都市計画史研究者を招聘してのセミナーを通じて、「都市計画遺産」をめぐる議論の国際的状況を把握した。

研究成果の概要(英文)：In this study, we established the new concept "planning heritages" for urban space s which should be conserved and inherited as good achievements and future resources of Japanese. Intensive survey about "planning heritage" was carried on in some local cities including cities and towns in Sanriku region which were severely damaged by tsunami after the 3.11 East Japan Great Earthquake. In addition, current international discussions and projects about "planning heritages" became clear through our overseas researches in England, USA, Australia and our seminars with researchers from USA and China.

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学 ・ 都市計画・建築計画

キーワード：都市計画 遺産 保全活用 都市計画史 アーカイブ

1. 研究開始当初の背景

景観法の制定、歴史まちづくり法の制定に象徴されるように、我が国の都市づくりでは、歴史的な都市景観への配慮が一般化しつつある。しかし、そこで対象とされている「歴史」とは、いわゆる「伝統的」な建物で構成される街並みや古来からの地形が生み出す眺望景観が殆どである。一方、「近代的」な遺産については、近年、近代建築や近代化遺産などが注目され、保存措置が取られるようになってきているが、近代都市計画が生み出してきた都市空間については、その歴史性が積極的に評価されるようになってきているとは言いがたく、保全や活用の対象となることは殆どない。しかし、市街地更新より、既存ストックを重視した市街地保全を基調とする都市計画への転換が求められている現在、近代都市計画が生み出してきた都市空間という既存ストックを歴史遺産という観点から評価し、その重要度に応じて必要な保全的措置や活用方策をとっていくことが望まれる。

2. 研究の目的

本研究では、こうした状況を背景として、1919年の都市計画法制定以降、現在までに都市計画法制度によって生み出されてきた都市空間の実態を把握した上で、その遺産的価値について検討し、保全活用手法の見通しを明らかにすることを目的とする。従来の歴史遺産の概念から外れる都市空間を新たに歴史的に価値付けるために「都市計画遺産」という概念を構築する。現代的な視点から見れば高い水準でなくても、当時としては高い

理想を抱き、創造された都市空間も少なくない。一見すると何気ない近代都市の景観や空間に新たな視線を注いでいきたい。

3. 研究の方法

本研究では、1) 研究代表者および分担者を中心として、日本都市計画学会共同研究組織「都市計画遺産研究会」を組織し、研究会による公開ワークショップやセミナーなどを通じた情報や意見収集、議論による概念整理と、2) 国内外の都市計画遺産の現地フィールドワークと文献調査を実施する。

4. 研究成果

(1) 「都市計画遺産」概念の整理

2010年11月に日本都市計画学会学術講演会場で開催したワークショップ『「都市計画遺産」の可能性を探る』で収集した意見、およびその後の識者アンケートにより収集した意見を、KJ法A型図解化し、「都市計画遺産」を巡る論点を明確化した(図1・図2)。他の類似遺産との違いが明らかになった。

(2) 「都市計画遺産」の実態把握

全国各地の都市計画遺産について、藤沢駅前南部第一防災建築街区や松江官庁街をとりあげ、その形成の経緯、都市計画史的価値や活用可能性について、詳細な個別のケーススタディを行った。並行して、全47都道府県からの都市計画遺産事例の抽出を実施し、暫定リストを作成した。

(3) 三陸沿岸都市の都市計画遺産アーカイブの構築と公開

2011年3月11日の東日本大震災を受けて、

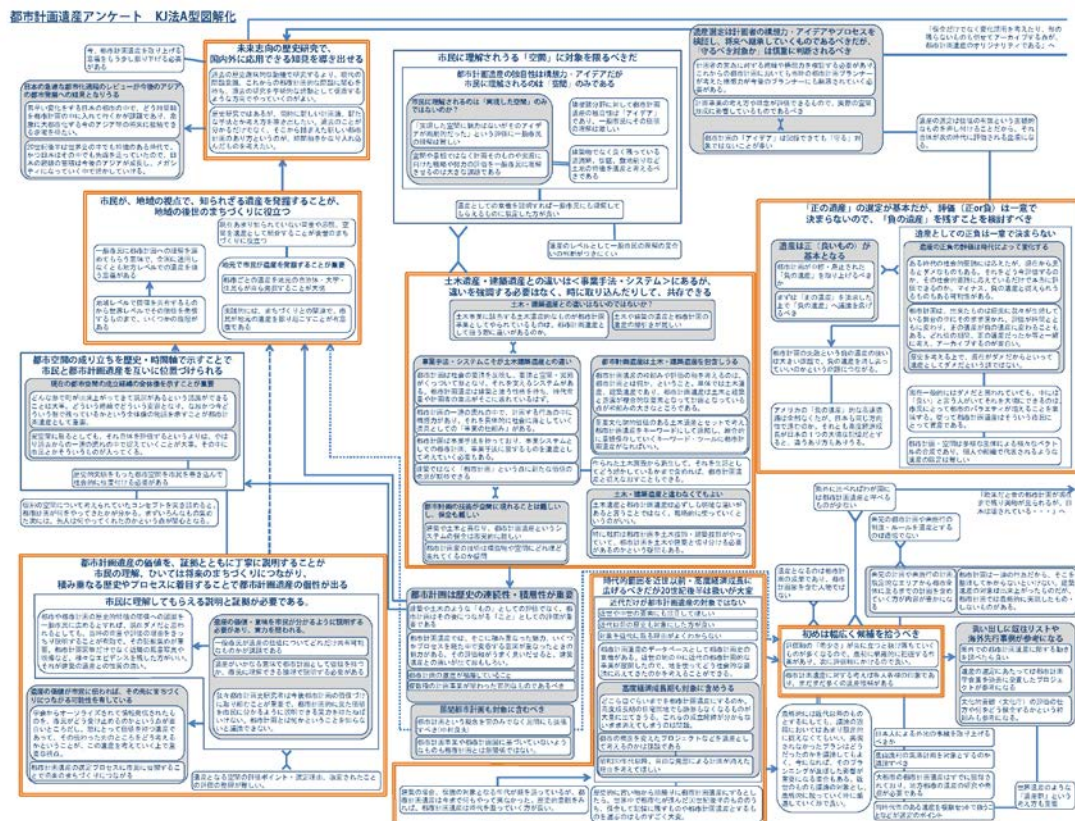


図1 「都市計画遺産」の概念整理 その1

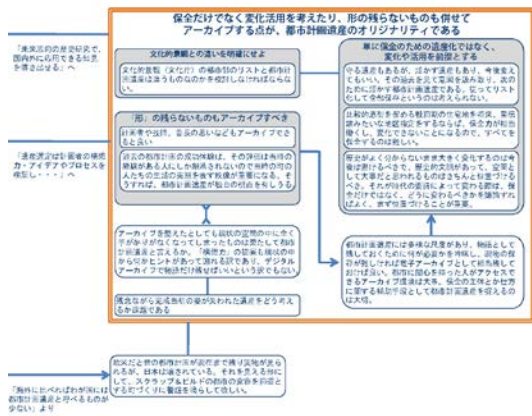


図2 「都市計画遺産」の概念整理 その2

緊急の史料調査を実施し、「1933年三陸津浪からの復興計画」、「戦前期の法定都市計画」、「戦災復興計画」、「戦後1960年以前の都市計画」、「1960年チリ地震津波後の復興計画」、「その後、現在までの特筆すべき都市計画」で構成される「総合アーカイブ」と、被災22市町村の「過去の復興計画カルテ」を中心とした「都市別アーカイブ」からなる「三陸海岸都市の都市計画／復興計画史アーカイブ」（図3）を公開した。

三陸海岸都市の都市計画／復興計画史アーカイブ



図3 三陸海岸都市の都市計画／復興計画史アーカイブの公開画面

(4) 「都市計画遺産」に関する海外での取り組み

我が国における「都市計画遺産」を核とした施策の検討のために、都市計画関係者が集う組織による自己適応的な活動として、イギリス、アメリカ、オーストラリアの各国の都市計画学協会主導の「都市計画遺産」関連の取り組みについて現地調査を実施し、その仕組みや成果等を明らかにした。

(5) 「都市計画遺産」をめぐる国際交流の

推進

「都市計画遺産」の可能性を探る目的で、海外の研究者との議論を行う場として、都市計画遺産セミナーを立ち上げた。2013年3月8日に開催した第一回セミナーでは、イェール大学のアラン・プラッタス教授を招聘し、「Civic Art: its Legacy and Contemporary Relevance」という題目での講演、および「過去のアーバンイズムにどう現代的な意義を見出すのか」について議論を行った。2013年11月9日には第二回セミナーとして、中国から李百浩（東南大学教授）、侯丽（同济大学副教授）、傅舒蘭（浙江大学講師）を招聘し、1用語と概念、2教育と職能、3遺産と保全の3つのテーマについて、日本と中国との都市計画史研究のコラボレーションの可能性を探った（図4、図5）。また、第二回セミナーに先立ち、2013年5月には、中国都市計画学会都市計画の歴史と理論学術委員会の年次総会にて、招待講演「日本近現代都市計画史の歩み、現状と展望」を行った。第二回セミナー開催前日には、日中の研究者で都内主要都市計画史アーカイブを訪問し、共同史料調査を実施した。



図4 第二回セミナーの会場風景



図5 中国研究者との共同史料調査

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計15件）

- ① Nakajima Naoto, La ricostruzione postbellica e il paesaggio urbano storico di Tokyo, *Storia Urbana*, 査読有、140/141、2013年、127-153頁
- ② 中島直人、藤沢駅前南部第一防災建築街区造成の都市計画史的意義に関する考察、日本建築学会計画系論文集、査読有、78巻688号、2013年、1301-1310頁

- ③河本雄介・中島直人、再開発制度形成期における都市広場の空間特性と計画理念に関する研究 -防災建築街区造成事業を対象として-、都市計画論文集、査読有、48-3号、2013年、501-506頁
- ④宮下貴裕・一ノ瀬友博・中島直人、静岡中心部の都市改造計画における既存街路構造の評価の変遷に関する研究 -「通り」を中心とした都市づくりの意識に着目して-、都市計画論文集、査読有、48-3号、2013年、489-494頁
- ⑤中野茂夫、基盤整備にまつわる標準化～オーダーメイドからレディメイドへ～、建築雑誌、1642号、査読無、2013年、22-25頁
- ⑥中野茂夫、近現代松江の官庁街形成史～官公署・文教施設の配置と県庁周辺整備計画に注目して～、都市計画論文集、査読有、47-3巻、2012年、733-738頁
- ⑦西成典久、戦前期高松の都市計画事業に関する研究、香川大学経済論叢、86巻2号、査読無、2013年、249-276頁
- ⑧中島直人、「三陸海岸都市の都市計画／復興計画アーカイブ」に学ぶ、都市計画、299号、査読無、2012年、84-87頁
- ⑨中島直人、釜石中心地区の復興計画と市街地形成の履歴、都市計画、296号、査読無、2012年、22-23頁
- ⑩中島直人・神吉紀世子、遺産と文脈の創造的前進 まちなみの新しさと古さを巡る問題、日本建築学会総合論文誌、10号(場所性・地域継承空間システムと都市建築のフロンティア)、査読無、2012年、51-54頁
- ⑪佐野浩祥、全国総合開発計画における拠点開発構想に関する研究、都市計画論文集、査読有、47-3号、2012年、403-408頁
- ⑫中島直人、都市計画事業家・根岸情治の履歴と業績に関する研究、都市計画論文集、査読有、2011年、46-3号、pp. 283-288
- ⑬中島直人、計画遺産のアーカイビング 三陸地方の復興計画史からの展望、建築雑誌、査読無、126巻1624号、2011年、26-29頁
- ⑭中島直人・田中暁子、三陸の過去の津波被害と復興計画、都市計画、291号、2011年、45-48頁
- ⑮初田香成、1950年代の都市不燃化運動の全国的展開とその担い手、日本建築学会計画系論文集、査読有、668号、2011年、2011-2016頁

〔学会発表〕(計2件)

- ①中島直人・傅舒兰・中島伸、日本近現代城市规划史研究の現状と動態、中国城市规划学会中国城市规划历史与理论学术委员会年会、2013年5月27日、平遥雲錦成民俗賓館
- ②中島直人、Archiving Planning Heritages - Vision from the History of Restoration Planning in Sanriku Area-、Tohoku Planning Forum、2012年1月6日、慶應義塾大学三田キャンパス

〔図書〕(計3件)

- ① 蓑原敬・松隈祥・中島直人、エクスナレッジ、建築家・大高正人の仕事、40-68頁、2014年
- ② 中島直人・初田香成・田中傑・野村悦子、不二出版、解説 東京地籍図、8-10、68-97頁、2012年
- ③ 中島直人・初田香成・西成典久他63名、朝倉書店、60プロジェクトによむ日本の都市づくり、2011年、26-29頁・196-199頁・201-208頁、2011年11月

〔その他〕

ホームページ等

- ① 都市計画遺産ネットワーク
<http://www.planning-heritage.net>
- ② 三陸海岸都市の都市計画／復興計画史アーカイブ
<http://www45.atwiki.jp/sanrikuplanning/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中島 直人 (NAKAJIMA, Naoto)
慶應義塾大学・環境情報学部・准教授
研究者番号： 30345079

(2) 研究分担者

中野 茂夫 (NAKANO, Shigeo)
島根大学・総合理工学研究科・准教授
研究者番号： 00396607

初田 香成 (HATSUDA, Kosei)
東京大学・大学院工学系研究科・助教
研究者番号： 70545780

西成 典久 (NISHINARI, Norihisa)
香川大学・経済学部・准教授
研究者番号： 90550111

佐野 浩祥 (SANO, Hiroyoshi)
金沢星陵大学・経済学部・講師
研究者番号： 50449310

津々見 崇 (TSUTSUMI, Takashi)
東京工業大学・大学院情報理工学研究科・助教
研究者番号： 40323828